

# 自分の考えが読み手に伝わる文章を書こう

令和2年度全国学力・学習状況調査では、第2学年「B 書くこと」(1)ウの「自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くこと」の指導事項にかかる、「俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を選んだ理由を書く」設問が出題されています。

「効果的に伝わる」文章にするためには、文章を書く目的や意図を意識し、根拠を明確にして書くことが大切です。また、説得力を増すために、説明や具体例を加えたり資料を引用したりすることや、内容を伝えたり印象付けたりするために、語句や表現の仕方を工夫することも大切です。様々な言語活動を通じた学習の中で、各学年の指導事項に沿って、目的や意図を意識し、読み手に伝わる文章を書くよう指導することが大切です。

## ワークシート活用場面例

※ワークシートの設問は、単元など内容や時間のまとまりの中で、身に付けた資質・能力を確かめることに活用できます。

ポイント

### 第1学年(12月)

「根拠を明確にして魅力を伝えよう」  
(光村図書 P180～)

第1学年では、「根拠を明確にする」ことが重点です。



指導事項「B書くこと」  
(1)ウ 考えの形成、記述

根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要です。

例えば、記述の授業では、考えと根拠の組み合わせが適切かどうかを吟味しながら清書を書く学習が考えられます。「作品の魅力(考え)」と「具体的な特徴(根拠)」が正しく組み合わせられているかを、モデル文を使って検討し、根拠を明確にして書くことの大切さを理解できるようにします。

チャレンジ②では、「工夫(根拠)」と「表現の効果(考え)」のつながりを考える力が確かめられます。

ポイント

### 第2学年(12月)

「根拠を明確にして意見を書こう」  
(光村図書 P172～)

第2学年では、「説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする」ことが重点です。



指導事項「B書くこと」  
(1)ウ 考えの形成、記述

根拠の適切さを考えるとは、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかを検討することです。説得力を増すために、説明や具体例を加えて、考えの根拠となることを具体的に記述したり、より効果的な語句や表現を選んだりすることが大切です。

例えば、記述の授業では、モデル文を提示し、意見の「根拠」となる事実や事柄を具体的に記述することで説得力が増すことを理解できるようにする学習が考えられます。また、モデル文を比較することで、具体的に記述することの大切さを実感できます。

チャレンジ①では、説明や具体例を加えて具体的に記述する力が確かめられます。

ポイント

### 第3学年(12月)

「説得力のある文章を書こう」  
(光村図書 P174～)

第3学年では、「表現の仕方を考えたり、資料を引用したりする」ことが重点です。



指導事項「B書くこと」  
(1)ウ 考えの形成、記述

表現の仕方を考える際には、目的や意図、題材などに合わせて、これまでに学習した表現に係る様々なことを活用しながら書くことや、資料を適切に引用するために客観性や信頼性の高い資料を選んで用い、根拠としてふさわしいかどうか検討することが重要です。

例えば、記述の授業では、引用部分にどの資料を選ぶことが適切かを考える学習が考えられます。複数ある資料の中から、客観性や信頼性の高い資料を選ぶことや、考えとの整合性を考えることを通して、より説得力のある文章を書くことができるようにすることが大切です。

ワークシートのすべての設問において、これまでに学習したことを活用して書く力が確かめられます。